

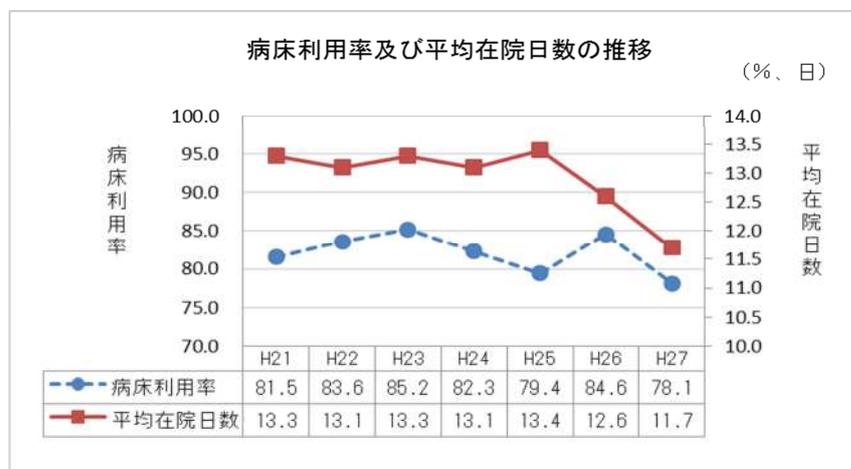
## 内部分析

## 1. 診療の状況

## (1) 病床利用率及び平均在院日数の推移、1日平均患者数の推移

平成27年度の病床利用率は78.1%で、前年度を大きく下回る結果となりました。

また1日平均患者数についても、平成27年度は入院で312.5人/日、外来で1,057.9人/日となっており、入院患者数が落ち込んでいることがわかります。これは一部の診療科で診療制限を行う等診療科の影響を大きく受けたことや、在院日数が減少したことによると考えられます。



## (2) 診療単価の推移

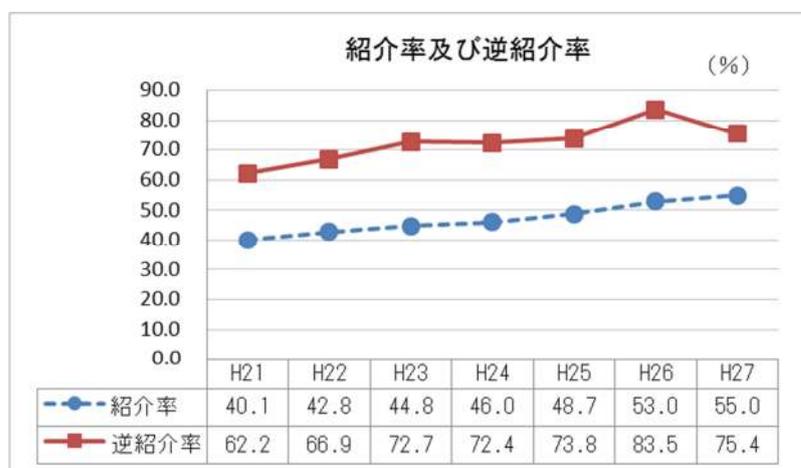
診療単価については、平成21年度以降、入院・外来ともに増加傾向にあり、平成27年度は入院で60,868円、外来で15,291円となっています。外来単価については、高額医薬品の薬価に大きく左右される傾向にあります。

病床利用率や患者数については、診療科の状況に影響を受けやすいため、安定した医師の確保を進めるとともに、診療単価を下げることなく病床利用率を上げていくことが重要です。



### (3) 紹介率及び逆紹介率

平成27年度の紹介率は55.0%、逆紹介率75.4%となっており、平成21年度以降増加傾向にあります。引き続き、地域医療支援病院として地域の医療機関との連携を強化し、紹介率・逆紹介率を上昇させていく必要があります。

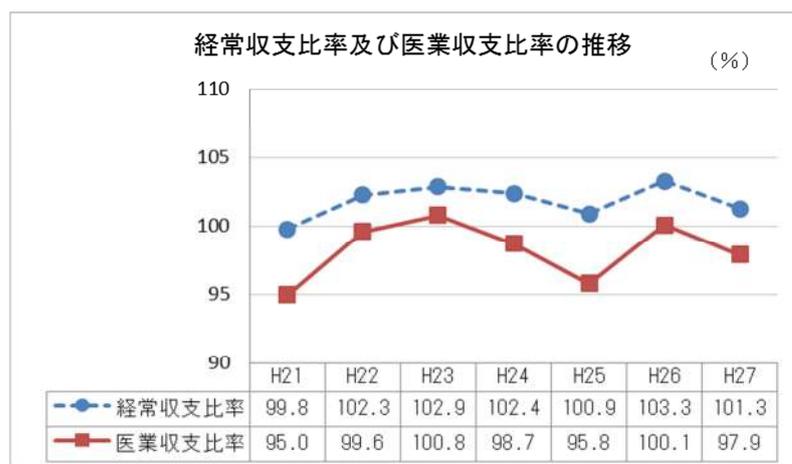


## 2. 経営の状況

### (1) 経常収支比率及び医業収支比率の推移

平成21年3月に策定された旧改革プランに従い収益の確保及び費用の圧縮に努めてきた結果、平成22年度以降、経常収支比率は100%を超え黒字を維持しており、平成27年度においては101.3%となっています。

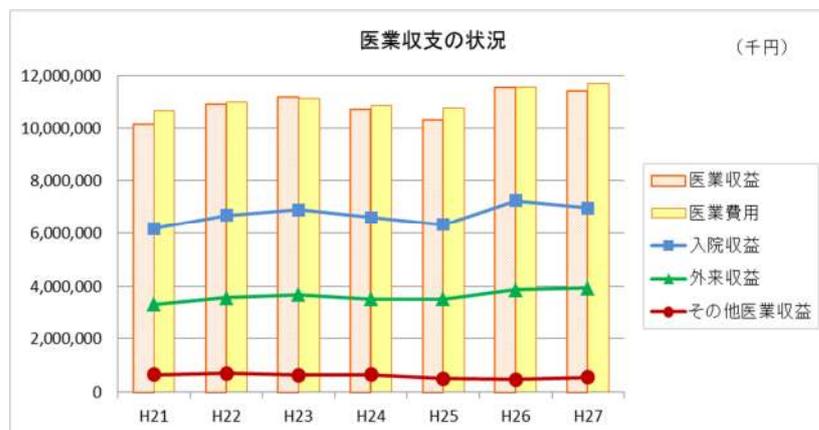
一方、医業収支比率は100%以上となることが望ましいとされていますが、平成23年度及び平成26年度に100%を超えており、平成27年度では97.9%となっています。



### (2) 医業収支の状況

医業収支の状況をみると、医業収益の6割を入院収益が占めており、医業収益の増減は入院収益に比例しています。

外来収益については、平成26年度以降増加傾向にあります。



### (3) 医業収益に対する医業費用の割合

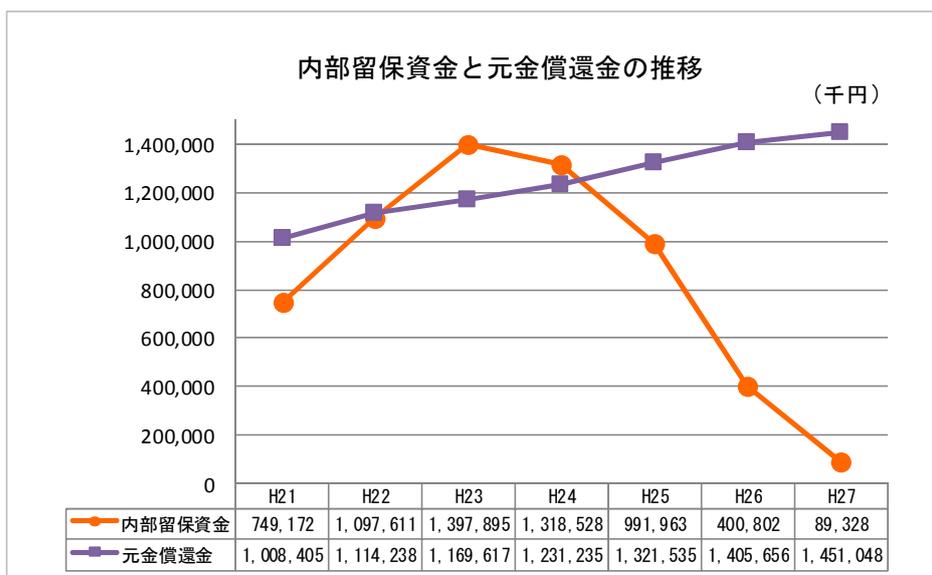
医業収益に対する医業費用の割合では、給与費が若干増加傾向にありますが、経費の割合が低くなるなど、費用が圧縮されています。



### (4) 内部留保資金と元金償還金の推移

内部留保資金と元金償還金の推移では、平成23年度をピークに内部留保資金が減少し続けていることがわかります。病院建設時の企業債の償還が続く平成33年度頃までは、元金償還金が14億円前後を推移するため、今後資金不足に陥ると予測されます。

早期の資金不足解消に向け、内部留保資金を注視しながら病院経営を進める必要があります。



※ 内部留保資金：平成26年度より新会計基準を適用